

連載

マヌカハニーの可能性③

MGOの学術研究進む

シクロケム

マヌカハニーは抗菌成分メチルグリオキサール(MGO)が含まれており、口腔内の除菌による口臭や歯周病の改善、胃でのピロリ菌除去、腸内環境の改善に有意な効果をもたらすことが明らかになっている。

マヌカハニーは抗菌成分メチルグリオキサール(MGO)が含まれており、口腔内の除菌による口臭や歯周病の改善、胃でのピロリ菌除去、腸内環境の改善に有意な効果をもたらすことが明らかになっている。

プロポリスとの組み合わせで相乗的な抗菌効果

15日号で既報。

マヌカハニーは抗菌成分メチルグリオキサール(MGO)が含まれており、口腔内の除菌による口臭や歯周病の改善、胃でのピロリ菌除去、腸内環境の改善に有意な効果をもたらすことが明らかになっている。

マヌカハニーは抗菌成分メチルグリオキサール(MGO)が含まれており、口腔内の除菌による口臭や歯周病の改善、胃でのピロリ菌除去、腸内環境の改善に有意な効果をもたらすことが明らかになっている。

さらに高まっている。

ニュージーランド・マヌカヘルス(NMH)社

をMGOマヌカハニーの供給元とするシクロケム(東京都中央区、A.O.O. 5614-7147)は、

自社の神戸研究所で機能性研究やシクロケムストリン包装を用いた粉末化

を行うなどの提案に力を入れている。

同社は現在、同じくマヌカヘルス社から供給されているプロポリス「Bio30」で、マヌカハニー

を組み合わせた製品開発も行っている。

どちらにも抗菌性を持つ素材であることから、歯周病や口腔内菌などに相乗的に働き、より効果を高めることが期待できる。

またBio30にはCAPEを中心とした数種の抗がん成分が含まれており、発がんに関連する酵素「PAK1」の活性化を抑える効果が確認されている。

がん患者の7割はPAK1を阻害することで、増殖や転移を抑えることが可能だという。

関連会社のコサナではマヌカハニーとBio30を組み合わせた商品の第一弾として、歯磨き粉とキャンディーを国内向けに発売開始する。

抗がん成分MGOの起源となるのは採取された直後のマヌカハニー中に多く含まれるジヒドロキシアセトン(DHA)であることが、ニュージーランド・ワイ

カト大学化学部門の研究で明らかになり、学術誌「Carbohydrate Research」(2009)に論文掲載された。

採取したマヌカハニーはMGO量が少なく、DHA量は多い。しかし、定温放置でハチミツが熟成されることでDHA量は減少し、MGOが相関して増大したことから、今回の結果が示唆された。

ワイカト大学は今回の研究成果について、今後のマヌカハニーの生産効率の向上にも役立つとしている。

マヌカハニーは抗菌成分メチルグリオキサール(MGO)が含まれており、口腔内の除菌による口臭や歯周病の改善、胃でのピロリ菌除去、腸内環境の改善に有意な効果をもたらすことが明らかになっている。